

場面の様子や人物の気持ちを進んで読み取る子 ～音楽との合科的な学習を通して～

1年生の実践

はじめに

児童は、読む力が優れており、初めて出会う文章でもすらすら音読することができる。また、音楽が得意でいろいろな楽器に興味をもち、音読をするときも楽器を使ってリズムをとっている様子が見られる。反面、場面の様子や登場人物の気持ちを想像して言葉に表すことや、大きな声で音読したりすることには、まだ慣れていない。

そこで、単元のゴールを設定し、音楽との合科的な学習を行うことで、より意欲的に読み取りや音読の学習に取り組んでほしいと考え、本実践に取り組んだ。

1 実践の概要（音楽劇をしよう「おむすびころりん」）

1学期最後の文学教材「おむすびころりん」は、心優しいおじいさんがねずみたちからのお礼によって、思わぬ幸運をつかむという昔話である。詩的でリズムカルな文章で表されているので、楽しく音読しているうちに、物語の展開や情景が自然に浮かんでくる。挿絵や本文を基に、場面の様子を想像しながら読み、効果音や声の調子を工夫しながら楽しく読むことを目標に取り組んだ。

(1) 読む力を付けるための手立て

① 目的意識を明確にした学習への取組

いろいろな楽器を使った音楽劇を上演することを単元のゴールに設定する。明確なゴールを設定し、相手意識をもって練習することにより、意欲的に学習できると考えた。

② 音楽との合科的な学習

一つ一つの言葉や文に着目して場面の様子を思い浮かべることにより、それらに合った音を考えていく活動を行う。場面の様子や言葉のリズムも考えながら、楽器の鳴らし方を工夫していけるようにする。

(2) 指導の実際

単元のゴールの設定

本教材に出会ったときから、リズムに合わせて楽しく音読を始めた。「おむすびころりん」のねずみたちの歌の部分で、鈴を使ったリズム打ちを始めたことから、「いろいろな楽器を使って音楽劇をしたい。」と目標を決めた。たくさんの人の前での発表を目指し、学習計画を立て、意欲的に学習することができた。

場面に合った音作りと音読の工夫

音楽室へ行き、いろいろな楽器の音色を確かめてみた。「この鳥笛、穴に落ちるときの音にいいねえ。」「小槌からお米が出るところはギロを使いたい。」「ねずみの歌は、やっぱり鈴がいいな。」音読に合わせて何度も楽器をならしながら、場面の様子にピッタリくる楽器とその音の出し方を考える姿があった。また、声の大きさや読むスピードなどを工夫し、楽器と合わせて練習していた。

1人9役の音楽劇

学習参観での2年生と一緒に音読発表会の他にたくさんの先生方に発表を聞いてもらう機会をもった。一人で9役をこなすなど、てんてこ舞いになりながらも、楽器を器用に使って一生懸命に発表することができた。見てくれた人にアドバイスをもらったり、撮ったビデオを見て自分の発表を振り返ったりすることで、声の大きさやテンポ、抑揚などを中心に、どんどん改善していくことができた。

場面に合った音をリズムよく鳴らして、びっくりしました。練習を続けていくうちに、どんどん気持ちを込めて上手に音読できるようになりましたね。(お母さん)

<学習参観での発表の様子>



音があって、とても楽しい「おむすびころりん」でした。一人で、たくさんの楽器を使ってすごいなあと思いました。(2年生)



「おむすびころりん」は、がっきをたくさんつかってはっぴょうしました。すずやウツドブロックやウインドベルなど、たくさんのがつきをつかってたいへんだったけど、リズムにあわせてならすのがたのしかったです。おわりをどんどんちいさくしていくのが、うまうまききました。アンコールももらって、とてもうれしかったです。
(二年生児童の感想文より)

3 成果と課題

- 場面に合った音作りをするということで、一つ一つの言葉や文に深く着目し、場面の様子を考えることができた。また、楽器を使って音読することにより、イメージをさらに広げて読んでいく様子が見られた。さらにリズムよく楽器を鳴らすために、言葉のまとまりも意識して音読することができた。
- 音楽劇を発表するという明確なゴールを設定したことにより、「見てくれる人に様子が伝わるように」という明確な目標をもつことができ、自分の発表を振り返っては工夫を繰り返していくことができた。
- 学年一人ということで、友だち同士の学び合いが国語ではもてない。発表を通して周りに発信するだけでなく、学び合いの場を考えていく必要がある。